診療局：内科《血液内科》

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
理事兼副病院長兼主任部長 兼臨床研修センター長 兼薬剤部門長兼薬剤管理センター長	烏野　隆博
部長兼輸血・細胞治療センター長	安見　正人
部　長	釜江　剛
副医長	上條　公守
非常勤医員	白石　貫馬(8月入職)

＜特色と概要＞

当院は日本血液学会認定血液研修施設であり、これまでに造血幹細胞移植療法を含め、積極的に治癒を目指した治療を行ってきた。自己末梢血幹細胞移植、血縁者間造血幹細胞移植の他、日本臍帯血バンクおよび日本骨髄バンクを介した造血幹細胞移植が施行可能な認定施設であり、1991年から2009年までに施行したすべての移植患者数は319名である。2009年以降、常勤医師の減少により移植医療を休止していたが、2015年度からスタッフが確保されたことから移植医療を再開した。精力的に同種幹細胞移植を行い、2016年5月骨髄バンクからの非血縁者間造血幹細胞移植認定施設となり、同種造血幹細胞移植および自家幹細胞移植を精力的に行ってきている。また2023年10月にはCAR-T細胞(キメラ抗原受容体-T細胞)療法という、大学病院クラスでしか施行できない、最先端の細胞療法が可能である施設(大阪府:6施設)として認定され、私たちの目標としている、”この地域で完結する医療の提供”を着実に達成しようと努力してきている。また、医師だけではなく薬剤師や一般市民に対しても、血液疾患に対する医療知識のレベルアップを目指し講演会を行った。

このように治癒を目指した積極的治療に関しては拡充してきた一方で、これら以外の生活の質を重視した化学療法や輸血療法など患者の満足度を重視した、患者の状況に応じた診療を行った。

【診療体制】

血液専門医の常勤医4人(その内日本造血・免疫細胞療法学会認定医3名)で外来診療を担当し、地域の医療機関からの紹介患者の診療や外来化学療法、輸血療法など多くの患者の診療にあたっている。このように医療体制および診療体制が整ったことで近隣からの紹介患者も増加してきている。この他、他科からの止血異常や化学療法の合併症等に関するコンサルトにも随時対応した。

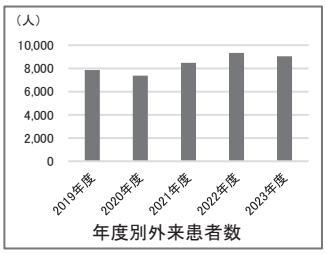
入院診療はスタッフ全員の5名で担当した。20床の割り当て病床で稼働しているが、患者数の増加に伴い常時20床を超え、延べ患者数は316名であった。

診療のみではなく、臨床研究・教育にも力を入れ、多くの講演会や学会発表を行っている。論文としては英文原著論文:1篇、邦文論文(うち1編は血液内科初期研修医):2編の論文発表を行った。

＜実績＞

外来患者数　　(人)

年度	外来	
	延べ患者数	1日平均
2019年度	7,856	32.5
2020年度	7,375	30.3
2021年度	8,474	35.0
2022年度	9,342	38.4
2023年度	9,039	37.2



各疾患のべ入院患者数　:316名

(期間2023/4/1-2024/3/31)

悪性リンパ腫、形質細胞性疾患	
非ホジキンリンパ腫	98
ホジキンリンパ腫	5
成人T細胞性白血病/リンパ腫	4
多発性骨髄腫	23
急性白血病とその類縁疾患・慢性白血病	
急性骨髄性白血病	58
急性リンパ性白血病	6
慢性骨髄性白血病	4
骨髄異形成症候群	27
良性疾患、その他の疾患	
特発性血小板減少性紫斑病	22
再生不良性貧血	6
自己免疫性溶血性貧血	5
その他	58

＜今年度の成果と反省点＞

1. 今年度の大きな成果は、CAR-T細胞療法が施行可能である施設として認定されたことである。しかしこれは施設全体の努力の結果でもあるので、今後に期待したい。
2. 同種造血幹細胞移植術が可能な無菌病室を増床してもらったが、目標件数には届かなかった。

＜来年度への抱負＞

1. CAR-T細胞療法の位置づけを見極めるためのワールドワイドの情報を取り込んで、安全で効果的なCAR-T細胞療法を施行していく
2. 在院日数の短縮
3. 学会発表・論文作成をさらに積極的に行っていく